

不少儀身望人_ハ拂下_ハ方銘_ニ
之所_ニ有品_ト相成_ル在_ル處_ハ各自_ハ愛
護_シ仕_テ自然_ニ生育_ス方_ハ行_ハ届_カ可_ク
見_レ込_ル以_テ今_ハ般_ニ般_ニ及_テ布_ハ告_ス我_レ
之_ニ素_ク地_ハ所_ハ并_ニ立_テ木_ハ若_ク其_レ儘_ニ望_ム
人_ト拂_下申_付儀_身謂_ハ官
林_ノ名_義ヲ私_林之_ニ換_ル我_レ之_ニ儀_身
敬_テ伐_ル木_ヲ為_シ致_ス我_レ之_ニ意_ト無_ク

且夫_中之_ニ故障_無之_ニ場所_ハ限_ル不_レ
儀_身水_源ヲ涵_養シ出_ル砂_ヲ打
止_スル_ハ小_ノ民間_ニ至_テ害_ス之_ニ場所_ハ差
留_ル儀_身有_ル之_ニ既_ニ京都_府より
當_省之_ニ云_ハカ_ク立_テ有_ル右_之類_ヲ以
及_テ差_圖ヲ積_リ在_ル坐_ヲ依_テ之_ニ比_シ之_ニ
未_レ答_カリ_ト之_ニ以上

大蔵省

大蔵省

414
A 3840
3

414
A 3840
2

正院

フ巾

追々別紙廻シ之書類区進也

大正十一年四月
櫻井新平寄

是迄官林ト唱伐木差留有之ハ林都テ御拂下
 二可取計尤買下之者余人へ賣渡候儀ハ勿論山
 林ノ終所持致シ又ハ伐木候トモ可為勝手譯ニ
 テ全ク公物ヲ私有物ニ相改候趣意ニ付於府縣
 篤ト取調差支無之場所ハ別紙雜形之通華士族
 卒平民并他ノ管内ノ者ト雖凡廣ク入札ノ上三
 番札迄相添當省へ可伺出委細ノ儀ハ左ノ規則
 二照準可致事

一落札ノ者立木代ハ即金上納地代ハ五ヶ年賦

六月

三四日

京都府

414
A.3843
3

正元

大藏省

上納ノ積リ前廣入札人へ相達置可申事

一 入札ノ内同札ノ者有之節ハ立木代即金上納高札ノ方落札ト相心得可申事

一 山林税ノ儀追テ御改正相成候迄近方從來ノ山林へ比較致シ相當ノ税額當省へ伺出申事

一 是迄官林請山或ハ立銀山等ノ唱ヲ以三年々下草永等上納致シ來候場所ハ其年ヨリ相廢シ落札本人ヨリ山林税為差出可申事

一 伐木ノ上開墾致度旨願出候ハ地味ニ應シ

相當ノ楸下年季相極當省 同出申事

但水源ヲ涵養シ或ハ土砂ヲ扞止スル等ノ山林可注意事

一 是迄官林ト唱來候トモ其實立木等無之場所ハ先般相達候菜蕪不毛地御拂下規則ニ照準可致事

右之通候事

壬申
五月

大藏省

六月

三四号

京都府

414
A.3840
3

入札離形

何國何那河村字何御林
一 反別何程

此地代金何程

但 壹反步何程

一 木數何本

此代金何程

但 松杉檜雜木目通り何尺
廻り何尺迄平均何本付
何程

右之通入札仕候處相違無御座候落札相成候節
八立木代即金地代金ノ儀八五ヶ年賦ヲ以上納

六月

三四号

京都府

未完

大藏省

414
A.384C
3

可仕候以上

年号月日

正完

大藏省

何縣管下

何國何郡何村

何某印

大正十一年四月
大隈侯爵御贈

別紙之通大藏省申出及条
互敷立詮儀迄度此段中進

五月廿四日

京都府

正院

印

六月

三四号

京都府

寫

今般官林都而法賞拂之法達
 有之少何之法詮議以助之
 之程之石わぬり得共債わ老り
 百年之々々を經て生長せる良
 材二朝一夕之是を製作するの
 御國は法前水艦鏡跡其外多分
 材本を備ふる工作少くして幸
 良材乏しとの事も前途開化

進歩の他は官民共天ニ土木之功を
負ふに過ぎざるに必然の理なるに先叙之部
省を被置造船鍊道等請察事を
沙収且工學の道哉日を信す可案
左に得た材木に入用往々夥多あるに
推而可知也將に山林を伐すに能く
滋潤の氣を令蓄し時に復して膏
雨を及散し農桑百穀を成生し

人畜を令長殖を且に枯死を令去大
氣乾燥し滋潤を令却し氣乾く早
年雨露を養を令去久に山林を
潰洪水の害あり況や近年土木の
水理没川河壅塞を生害甚く
寧ろ山林を枯す利害判然殊に
物亦大有用を良材を生ずる官林を
今も盡す所あるに山岳を民何ん

あく又持久の力もなく悉く採伐
百年の間に良材一朝薪炭となり國
家有用の物忽ち拵地て再び得ん
くさくさなるをいふは天候乾燥
土地荒廢其由を不知て其患
害を去る事の勝て難くと爲るは
此の人民亦保令を以て怒るを以て
地方に官の事をいふは其の由

深く謀て人民の害を去るは
國家の富殖を悠久に期し土地の
滋潤を以て保令を以て其の
依て不憚及建言を以て官林都て
其の弊を拂ふを以て書連を以て
其の弊を拂ふを以て書連を以て
其の弊を拂ふを以て書連を以て

編六月廿四日

京都府
大藏省

